

道徳科学習指導案

令和8年6月11日(木) 学習指導Ⅱ 第3学年3組(5年WS) 指導者 横尾 紗也香

【主 題】 きまりを生むもの(内容項目C 規則の尊重) 『心の優先席』(光文書院)

| | |
|------------|---|
| 考察 | 道徳性 (道徳的判断力, 道徳的心情, 道徳的实践意欲と態度) |
| 養いたい道徳性 | ・社会生活の中で守らなければならないことについての道徳的価値理解, 人間理解, 他者理解を基に, 約束やきまりがあるよさや守ることの難しさについて, 友達や教師と話し合いながら自分事として考える学習を通して, 自分の身の回りにある約束やきまりを進んで守っていききたいという道徳的心情を中心に, 道徳的判断力, 道徳的实践意欲と態度を養う。 |
| 子どもの実態 | ・子どもたちは, いつでも約束やきまりを守ったり, 公共物や公共の場を大切に使用したりすることで, みんなが気持ちよく生活できると理解している。しかし, 遊びの中で自分たちが決めた約束は守れても, 学校や町の約束は守れなかったり, 学校のきまりを自分にとって都合よく解釈したりする様子が見られる。また, 身の回りの約束やきまりが生まれた経緯について考えた経験も少ない。 |
| 価値 | ・社会生活の中で, 所属する集団にある約束やきまりを守ることは大切である。なぜなら, 約束やきまりとは, 多様な人がともに暮らす社会において, 誰にとっても安全かつ安心して気持ちのよい生活を保障するために生まれたものであり, 所属する一人一人が約束やきまりを守ることによって, 集団や社会は, より生活しやすくなるからである。よって, 本主題では, 自分の身の回りにあるすべての約束やきまりは, 自他ともに安全かつ安心して気持ちのよい生活を保障するために生まれたものであるという道徳的価値理解を深める学習を行っていく。その中で, 約束やきまりがあるよさや, 約束やきまりを守ることの難しさを話し合い, 人は, 約束やきまりがあるおかげで自他ともに安全にかつ安心して気持ちよく生活できていると知りつつも, 時として, 約束やきまりは自分を拘束するものだと捉えたり, 自己中心的な考えから約束やきまりを守れなかったりすることがあるという人間の弱さを理解していく。また, 友達や教師と話し合う中で, 約束やきまりを守ることができたり, できなかったりする場合の感じ方や考え方は多様であるという理解も深めていく。そして, 誰もが安全にかつ安心して気持ちよく生活できるようにしたいという思いを形にしたものが約束やきまりであると気づき, 自分の身の回りにある約束やきまりを進んで守っていききたいという道徳的心情を養っていく。 ・本教材『心の優先席』は, 混み合った電車で手すりにつかまって立っているおばあさんを見た3人の女の子が, 「優先席に座っている人が譲る」「近くの人が譲る」「譲りたいと思う人が譲る」というそれぞれの立場から, おばあさんに席を譲るべき人について会話する話である。その会話を聞いた主人公が, おばあさんに席を譲るべき人について考え込む姿から, きまりを守ることとよりよい行動との関係について課題意識をもつことができる。そして, 課題を追究する中では, おばあさんを見てそわそわしながらも席を譲らない乗客や, おばあさんのように席を必要とする乗客の心情に着目することで, 乗客が互いに思いやりの心をもって席を譲り合うことを理想としながらも, 「優先席」というきまりがあることによって, 譲る側・譲られる側の双方が安心して気持ちよく生活できると気付く。また, きまりがある理由について自己の生活経験と照らし合わせながら考えることで, 優先席のみならず, 社会の約束やきまりは, 誰もが安全にかつ安心して気持ちよく生活できるようにするために生まれたものであるからこそ, 進んで守っていききたいという道徳的心情を養うことができる。 |
| 見方・考え方 | 自分の身の回りにある約束やきまりを進んで守っていくことについて, 自己との関わりで多面的・多角的に捉え, これからの自己の生き方について考えること。 |
| 今後の学習 | 3年「きまりは何のため」での, 自分たちで決めたままりの意義を一人一人が考え, 守るよさについて考える学習へと発展していく。 |
| 他の教育活動との関連 | ・休み時間において, 遊具で遊ぶ際に, 一人占めをしたり, 順番を抜かしたりせずに, 周りの人のことを考えて遊ぶこと。 ・登下校中のバスや電車, 路上において, 騒いだり走ったりせずに, 周りの人のことを考えて行動すること。 |

本時の学習（1／1時間目）

ねらい 学校や町に様々な約束やきまりがある理由について話し合う活動を通して、約束やきまりは誰にとっても安全かつ安心で気持ちのよい生活を保障するために生まれたものであると気づき、自分の身の回りにある約束やきまりを進んで守っていきたいという道徳的心情を養う。

評価の視点 学校や町に様々な約束やきまりがある理由について、教材の登場人物の心情や状況、自己の生活経験を基に、多面的・多角的に考えたことを発言したり、記述したりしている。 <発言・学習シート>

| 学習活動と子どもの意識 | 指導上の留意点 |
|--|---|
| <p>1 自己の課題意識を基に、学習課題を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は「誰がおばあさんに席を譲るべきなのか」という疑問を解決したいと思ったよ。優先席の人が譲るべきだと思うけれど、遠かったら譲りにくいから。友達の「そわそわしながらも、なぜ誰も席を譲らないのだろうか」という疑問も分かるな。やっぱり誰が譲るべきか迷ったのだと思う。 <p>友達は近くの人が譲ればよいと言っていたけれど、そうしたら優先席がある意味がないよ。優先席の人が譲らなくていいのかな。 (課題意識)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○自他の多様な道徳的価値観に気づき、受け止め合えるように、事前に抱いた課題意識を子ども同士で共有する機会を設定し、共有された課題意識に対して共感しながら感想を伝える子どもを称賛する。 ○自己の課題意識をより明確にし、学習課題の解決に向けて追究する意欲を高められるように、教師が類型化して黒板に提示した数種類の課題意識の中で最も自分の課題意識と近いものを選び、同じものを選んだ子ども同士で、課題に思う理由を伝え合い、個別の学習課題を決めるよう促す。 |
| <p>個別の学習課題の例：「優先席」というきまりがある中で、誰がおばあさんに席を譲るとよいのだろうか</p> | |
| <p>2 互いの学習課題の解決に向けて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「譲りたい人が譲る」という考えの友達は、自分が優先席に座っていないくても、立っているのが大変そうなおばあさんのことを見たら見て見ぬふりはできない、と言っていて納得したよ。たしかに、優先席に座っている人が、きまりだからと仕方なく譲っても、おばあさんはうれしくないかもしれない。 優先席の人が必ず譲ってくれたら、お年寄りや妊婦さんは安心して電車に乗れるね。でも優先席に座っている自分が譲るべきだと思っても、気付かなかったり、話しかけづらかったりして、譲れないときはあるな。 お互いに譲り合うことができたなら優先席はいらないけれど、誰かが譲ると思って、誰も譲らない可能性もあると思う。だから、「優先席」というきまりがあった方がいいよ。自分が怪我をしたときも安心して乗れるしね。 学校や町にある約束やきまりも、みんなが安全に安心して気持ちよく暮らせるようにつくられたと思うよ。例えば、学校や公園の遊具は、順番に使ったらみんなが楽しめるし、バスや電車では静かに座るとみんなが快適だよね。 きまりをもっと厳しくしたら息苦しいよ。そうしなくても、気持ちよく生活できるはず。そのためにも今あるきまりを守っていくことが大切だよね。 <p>3 友達と話し合ったことを基に、自己の生き方について考える。</p> <p>優先席でなければ譲らなくてよいという考えではなく、必要な人に席を譲ろうとする思いやりをみんなが持っているといいなと思うよ。でも、いつでも誰もが安心して乗れるように「優先席」というきまりはつくられたと思うから、誰が譲ってもよいと思うけれど、誰もが席を譲ろうとする思いやりをもつ中で、優先席の人は進んで席を譲る必要があると思うな。 (課題を解決した意識)</p> <p>私は廊下を走らないというきまりを守れないことがあったけれど、みんなが安全に安心して気持ちよく過ごすためにきまりがあると分かったから、きちんと守っていききたいな。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○自他の多様な道徳的価値観に触れながら、個別の学習課題を解決できるように、事前アンケートから見取った道徳的価値観を基に、異なる課題意識の3～4人のグループをあらかじめ編成しておき、それぞれの学習課題の解決に向けてグループで話し合うよう促す。 ○学習課題の答えを見いだせなかったり、一面的な見方から答えを見いだしたりするなどしてグループの話合いが停滞した際、他のグループの考えから学習課題を解決する手がかりを得られるように、きまりがあるよさや、きまりを守れないことがある人間の弱さに関する考えを各グループから聞き取り、黒板上にまとめる。 ○優先席というきまりがあることがすべての乗客の安心感につながっていることに気付けるように、相手を思いやる気持ちをもって互いに譲り合うことを理想としたときの優先席の必要性について葛藤しているグループの話全体を紹介し、各グループでも話題にするよう促す。 ○話合いの中で気付いたきまりがあるよさを基に、身の回りの約束やきまりがつけられた意味に気付けるように、事前アンケートに提示した質問「どうして学校や町にはいろいろな約束やきまりがあるのだろうか」を再提示し、その答えについて、自己の生活経験を例に挙げながらグループで話し合うよう促す。 ○身の回りの約束やきまりを守ることの大切さに気付けるように、席を譲ることを控えた乗客の様子を基に、身の回りの約束やきまりの強制力をさらに上げることの是非を問いかける。 ○友達と話し合ったことを基に、約束やきまりがある理由や守ることの大切さに関わる考えをもてるように、話合いを通して考えたことや、個別の学習課題の答えを記述するよう促す。 ○よりよい自己の生き方を考えられるように、これまでの自己の生活を振り返りながら考えを記述している子どもを称賛する。 |